

キリストの光 光のキリスト

年間第27主日 10月4日

(マルコ10・2—16 または10・2—12)

ありのままの、今の自分。人はそれ以上でもそれ以下でもない。神は、そのありのままの自分を受け入れてくださる。

理想がある。人はこうでなければならぬ、という理想はある。しかし、おそらく誰も理想の自分、理想の人には到達していない。到達することはできない。理想の自分に到達することをあきらめてはいけなかもしれないが、まず、自分は決して理想的な人間ではないということを認めなければならぬのではないか。事実、今の自分は理想の自分ではないのだから。

そのような自分を、今の、ありのままの自分を神は受け入れて

ありのまま

抱きとめてくださる。そのとき、人は救われる。

こんな自分ではだめだ。こんな自分に神が目を留めてくださるはずがない。もっと、ちゃんとしなければ。もっと罪を減らして、正しく生きなければ救われない。

イエスは「あなたの信仰が、あなたを救った」と言ってくれた。

こんな自分だからだめだ、と思う人は救われない。こんな自分だからこそ、神が目を留め、抱きとめてくださる、と信じられる人は救われるのではないか。

「ありのままでもいい」ということは「甘えること」ではない。あ

りのままの自分を見つめる素直さと謙虚さがある。ありのままの自分を見て、それをまづ自分が受け入れることは、実は厳しいことなのだ。



たとえば、結婚生活はこうあるべきだ、と人は言う。そうでなければダメだ、と人は言う。しかし、その結婚の誓いを一生守り通すことがどんなに

難しいことかは、当事者にしか分らない。

当事者にしか分らないことを、神だけが分かっている。他の人には分らない。

「ありのまま」を神の前に差し出してはどうだろうか。人は、人の「ありのまま」が分からないからとやかく言う。時として裁く。しかし、神は「愛」によって「裁かれる。だから、人は救われる」という希望を持つことができる。たとえば、人が裁き、非難したとしても。

イエスは、はっきりと言われた。「子供のようには神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない

い」。子どもは子ども、と人は言う。それと同じように、人は人。それ以上でも、それ以下でもない。

ありのままの自分を神の前に差し出す。神はそのわたしを抱き上げ、手を置いて祝福してくださるにちがいない。わたしは、そう信じたい。

(山元眞二福岡教区司祭／カット＝高崎紀子)

今週の福音

5日・月ルカ	10・25—37
6日・火ルカ	10・38—42
7日・水ルカ	11・1—4
8日・木ルカ	11・5—13
9日・金ルカ	11・15—26
10日・土ルカ	11・27—28